

# いまといふ道は、行持よりさきにあるにあらず、 行持現成するをいまといふ

この句を簡単に言い表したものととして、芥川龍之介による次の言葉が思い浮かびます。

「人生を幸福にするためには日常の瑣事さじを愛さなければならぬ。人生を幸福にするためには日常の瑣事に苦しまなければならない。」

また、作家の笹沢左保の著書に木枯紋次郎を主人公とした一連の作品があります。その中の紋次郎のせりふに

「まともに明日を待っている者に限って、今日をおろそかに生きている。俺には明日はない。だから俺は今日一日を一生懸命生きなければならぬのだ」というものがあります。これも冒頭の句を平易に言い表しているといえましょう。

さて、冒頭の句は、『正法眼蔵しょうぼうげんざう』「行持」(上)の中の言葉です。

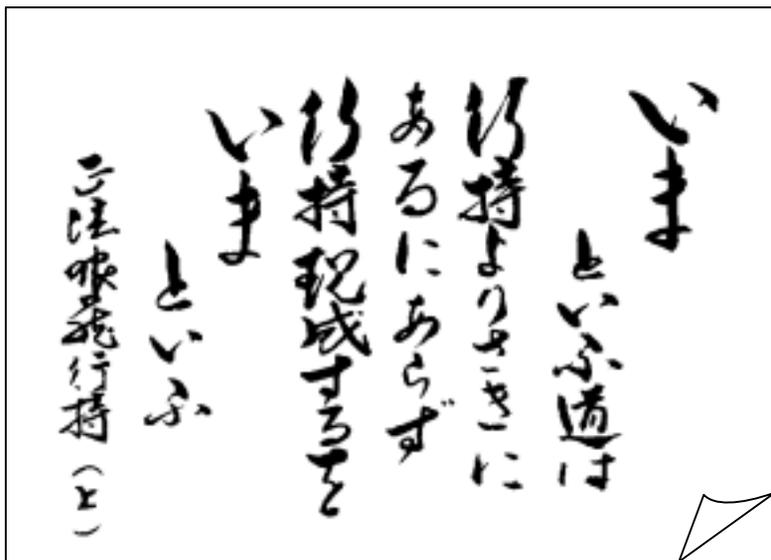
ここでいう、「いまといふ道」とは今という時間と考え、また「行持」とは現実の日常生活の毎日と考えられます。

譬たとえれば時というものは、川の流れと譬えられるように一瞬に過ぎ去って行くものです。当てにならない流れの先を当てにし、大事な時をいい加減に過ごしているうちに、気が付いた時には、どうにもならない自分になっている場合もあるのです。何か特別な今、何か特別な時間がある訳ではありません。現在の日常生活中にこそ大切な「今」があるのです。そして、具体的な一つひとつの日常生活が現れているその瞬間こそ「今」なのです。この時以外に当てにならない大事な時は存在しないのです。

ですから毎日の生活を漫然と過ごすのではなく、毎日を大事に生きることを常に考え、身心を惜しまずに、精進努力すべきであることをこの句は教えているのです。

道元禪師が御書きになった『正法眼蔵』「行持」の巻には、「行持」すなはち仏道修行の上で保つべき事柄、護持すべき心構えをくり返して伸べています。道元禪師がここで述べられる「いま」という時は、修行の以前からあるのではなく、修行の実現してる時こそ「いま」があるのだということです。「いま」という時を大切にして、毎日を積み重ねて行くことが、修行なのだとして戒めています。

時間を大切にすべきこと、一日一日をしっかりと生きることとは、何も仏道修行に限ったことでなく、我々の生活全てに言えることでしょう。日常の暮らしに当てはめて言うならば、生活や仕事に励んでいる状況が「いま」であり、その時無くして、人々の「いま」も様々な成果も存在しないと云えるのです。



## 曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所  
第五教区 布教部・出版部